

経営比較分析表（平成30年度決算）

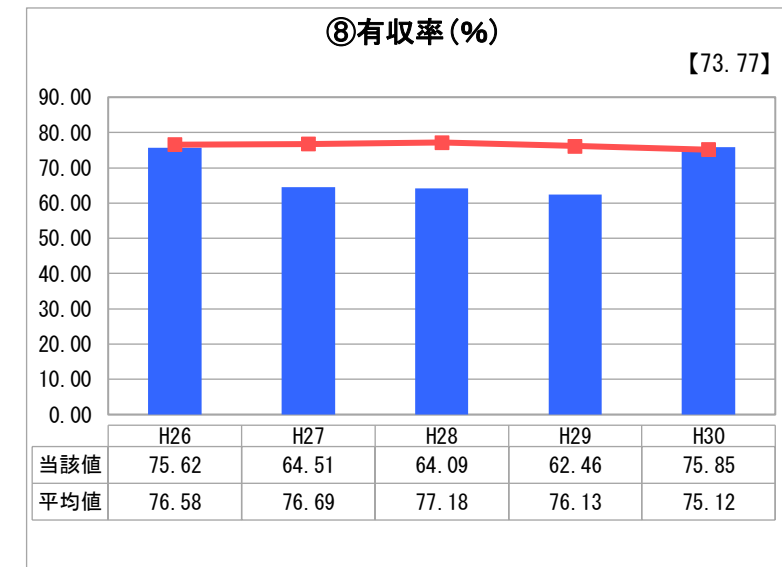
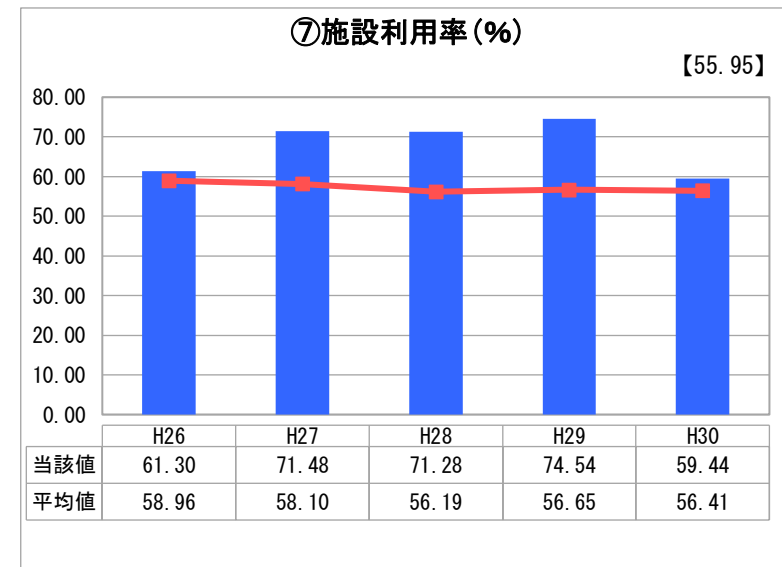
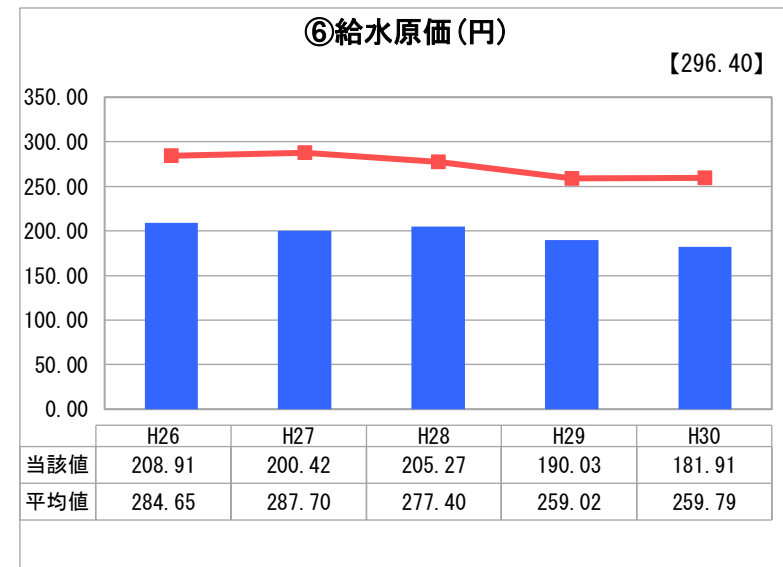
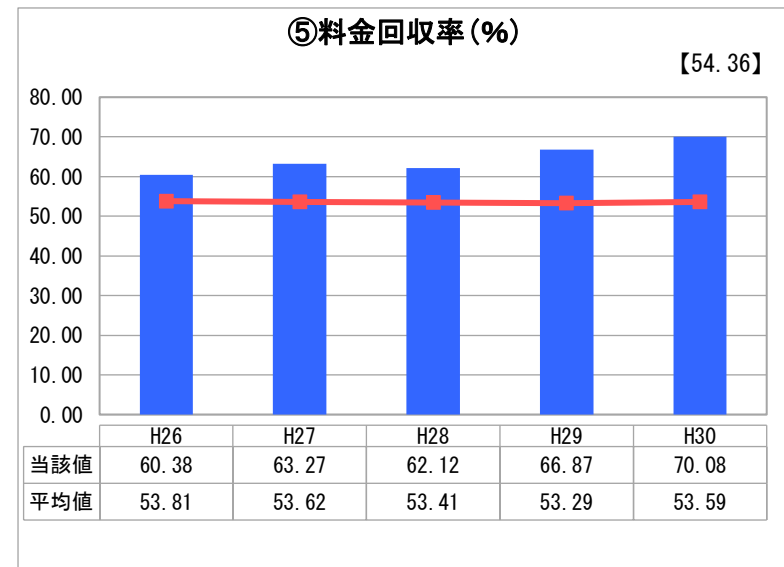
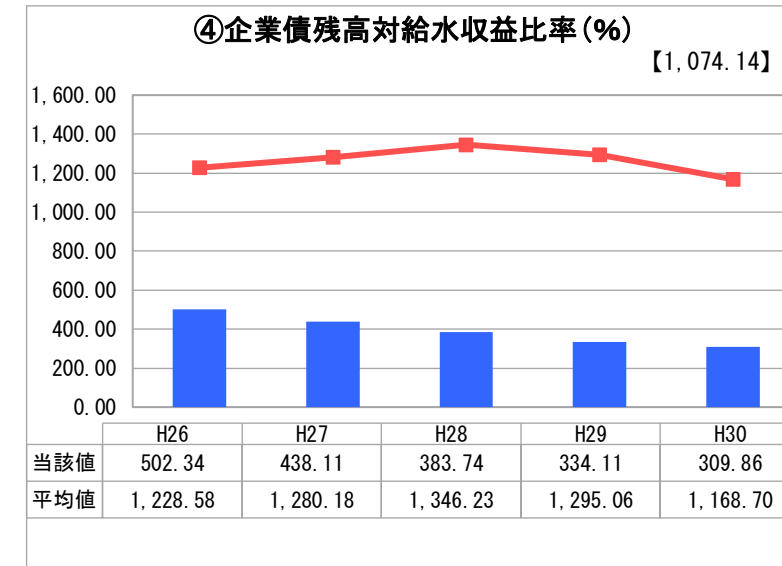
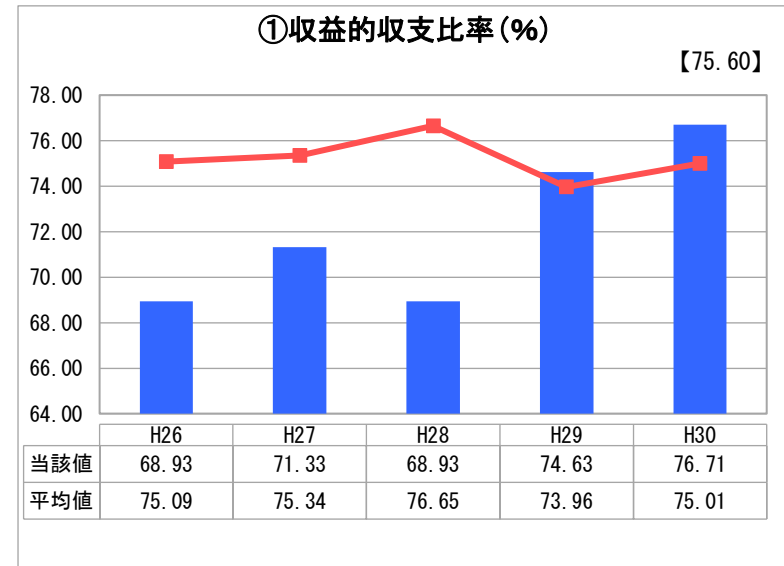
福井県 おおい町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	98.93	2,160	

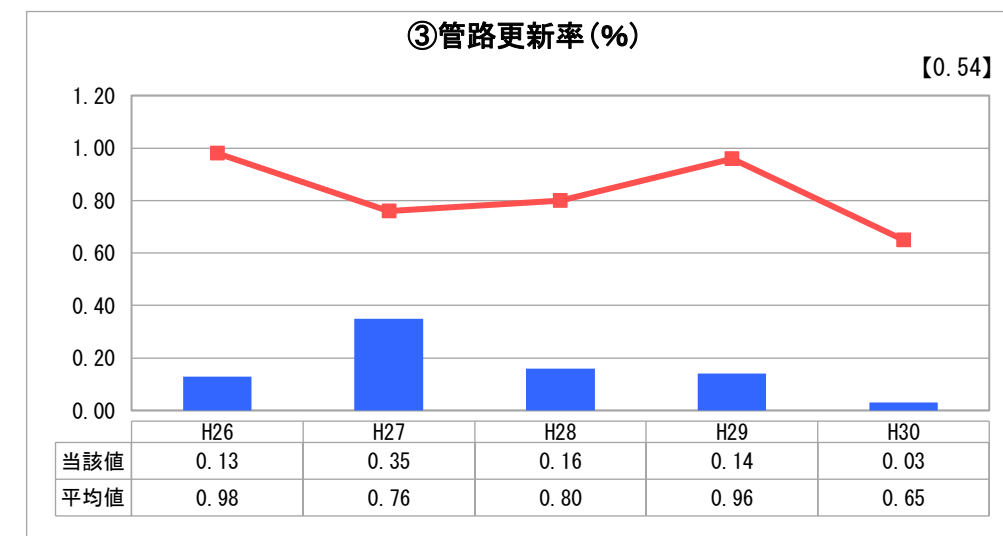
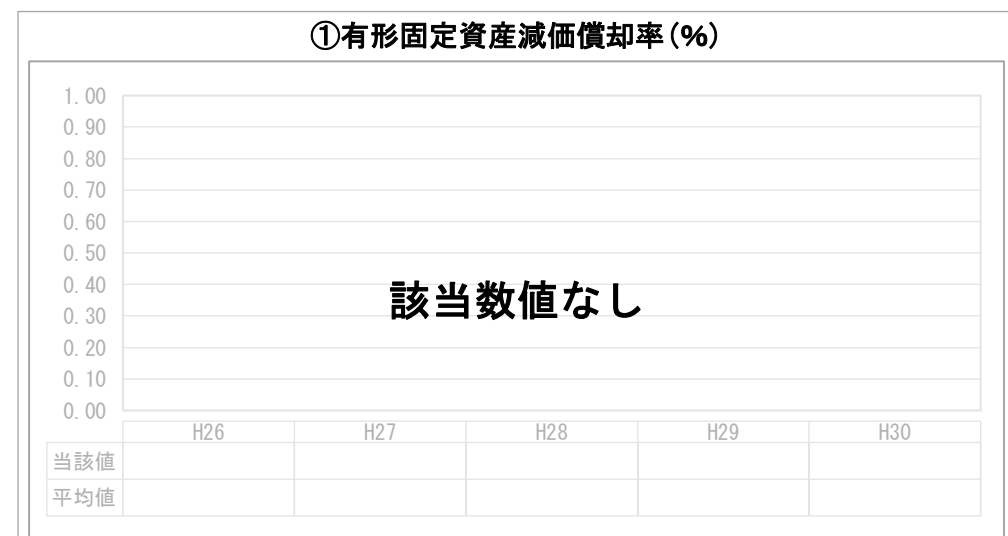
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,293	212.19	39.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,145	4.13	1,972.15

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率
料金回収率の上昇及び他会計からの充当などが前年に比べて増加したため、収支比率が上昇したものと考えられる。
- ④企業債残高対給水収益比率
事業に対して交付金等を充当したことで借入の抑制と債務残高が減少したことによるものと考えられる。
- ⑤料金回収率
供給単価としては前年並みであるが、⑥の給水原価が下がったことで上昇したのと考えられる。
- ⑥給水原価
有収率の増加により給水原価が前年より下がったと考えられる。
- ⑦施設利用率
漏水の早期発見及び修繕により配水量が減少したことが施設利用率の減少につながったと考えられる。
- ⑧有収率
前年に比べて漏水の早期発見及び修繕が行えたため配水量が減少し、有収率の増加につながったと考えられる。

2. 老朽化の状況について

水道施設においては、老朽化及び劣化してきているものが多々ある。住民への給水に重大な支障をきたすものから、順次更新や修理を行っている。水道管については、10年以内に法定耐用年数の40年を超えるものが、配水管で約6割になるとともに耐震管又は耐震適合管でない管が多々ある。塩ビ管(VP)を中心とした漏水が年々増加傾向にある。水道管の更新にあたっては、多額の予算が必要となるため、長期的に計画を立て更新を順次行っていく必要があると認識している。

全体総括

ライフラインとして全体的に普及しているものの、整備してから30、40年以上経過した施設の老朽化に伴う修繕、改修が今後増加するものと考えられる。水道管路の更新も多額の予算が必要となる中で、有収水量の改善、住民への安定供給ができるよう長期的な管路及び施設計画をたて実施していきたい。